

人がつくる。

## 戸田建設CSRレポート2011

コミュニケーション編

人でつくる。

社員に聞きました。私の「人がつくる。人でつくる。」とは……



# 人がつくる。 人でつくる。

ここで過ごす人々の姿を、  
ここからはじまるしあわせをイメージしながら。  
アイデアでつろう。情熱でつろう。  
さまざまな人の想いをつないでつろう。  
アタマとココロを使って  
人間にしかできないものづくりを目指して。  
人がつくる。人でつくる。  
それが戸田建設のやりかたです。

## Contents

ブランドメッセージ	1	数字で見る戸田建設のいま	13
トップメッセージ	3	ものづくりへの想い	14
特集1 東日本大震災への対応 建設会社として	5	品質管理	14
特集2 戸田建設創業130周年 感謝を共に 皆さまとともに	7	CO <sub>2</sub> 排出量の削減/ゼロエミッション	15
特集3 ステークホルダーダイアログ 女性から見た戸田建設	9	地震災害への備え	16
事業マネジメント	11	働きがいへの想い	17
		協力会社との連携	17
		社内の意識改革	18

コミュニケーションへの想い	19
地域社会との共生	19
グローバルな地域貢献	20
堅実・公正への想い	21
コンプライアンス	21
リスク管理/内部統制	22
2010年度CSR活動の計画と結果	23
第三者意見/第三者意見を受けて	25
会社概要/編集方針	26

**表紙への想い**

「誠実さ」と、そこからあふれ出す「力」  
「想い」「温もり」を白色を基調として表  
現しました。「人がつくる。人でつくる。」  
は当社のブランドメッセージであり、も  
のづくりのプロセス全体を通じて、安心  
感と信頼感という価値を、ステークホル  
ダーの皆さまに提供し続けるという意志  
を表しています。



# 当社ならではのものづくり、 想いのこもったCSR活動を 推進していきます



代表取締役社長

井 三 三

## はじめに

東日本大震災により亡くなられた方々に衷心よりお悔やみを申し上げますとともに、被災された皆さまに謹んでお見舞いを申し上げます。

震災後、私が被災地を訪れた時の惨状は、言葉では言い表せないものでした。建設物も半分以上が倒壊し、杭が根こそぎ引き抜かれていたり、破断したものもありました。また、津波によって電車が丘の上まで流されたり、船が屋根の上に乗っていたりするような話を伺うと、人智が及ばない力の強大さに震撼させられるばかりでした。

一方、私たちは震災を通じて得たことを教訓にして、これからの未来を創造していかなくてはなりません。当社は建物や社会インフラの整備を担うものの責任として、一日もはやい被災地の復興に向けて、引き続き全力で取り組んでいきます。

## 建設業とは、人と人のかかわり

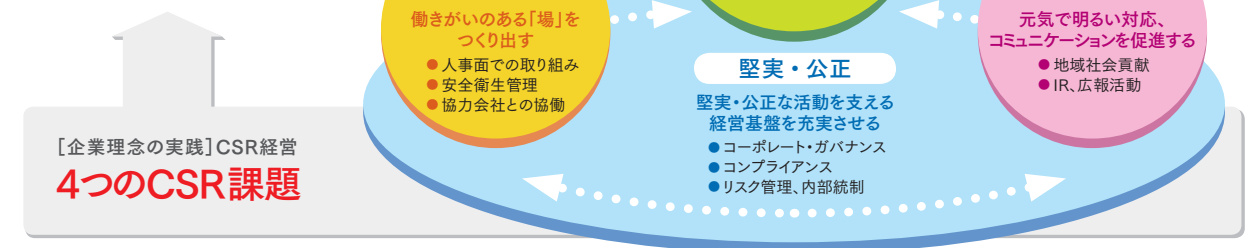
1881年(明治14年)に、初代・戸田利兵衛が「戸田方」と称して請負業を始めてから130年。その間、当社は社会とともに歩み、「建設を通じて社会福祉の増進に貢献する」を経営方針に掲げて、安心・安全で、快適な社会の構築に向けた事業活動を続けてきました。

私が常々申し上げている言葉のひとつに「建設業とは人と人のかかわり」があります。建設物をつくるということは、発注者はもとより、エンドユーザーや地域の方々、協力会社、当社各部門の社員など、多くの人の関与があり、その関係の中で建設物につくられていきます。同時に、こうした人々が建設物や当社に寄せる想いもさまざまですので、私たちはそれら一つひとつを真摯に受け止

## 戸田建設のCSR

理想とする会社像

「働きがいがあり、元気で明るく、  
堂々として、品格のある会社」



め、日々、行動していく必要があります。たくさんの想いをつなぎ、気持ちをひとつにして取り組むことで、真に価値あるものをつくり上げていくことができます。

## 建設物のライフサイクルへの対応を強化

当社の事業活動の主体は「人」です。社員一人ひとりがプロセス重視の姿勢を貫き、想いのこもった事業活動を着実に推進していくことで、社会的責任を果たしていきます。また、建設物のライフサイクルを通じ、品質や環境の分野において、より高い価値を提供するべく研鑽を重ね、社会から信頼され、期待される企業として成長を続けていきたいと考えています。

現在、当社では2009年に策定した「環境アクションプラン」に基づき、建設物のライフサイクルの各フェーズでの取り組みを推進しています。そのひとつとして、建設作業所における施工段階において、施工高1億円当たりのCO<sub>2</sub>排出量を2020年までに1990年比40%削減を目標に取り組んでいます。これに対して、2010年度は約26.6%削減し、概ね順調に推移していると認識しています。しかしながら、今後に向けてさらなる削減努力を重ねていかなくてはなりません。そのためには、建設物のライフサイクルの各フェーズで、環境への配慮をベースに、お客さまにとって必要な技術やサービスを提供していくことが、ますます重要になってくると考えています。

## 当社独自のCSR活動を推進

CSRの本質は「社会から何を求められ、何をすべきか」を考え、実行することにあります。そして、当社にとってCSRとは企業理念の実践そのものであり、企業としての持続的成長を図る上で最も重要な考え方となります。これが理想とする会社像「働きがいがあり、元気で明

るく、堂々として、品格のある会社」に凝縮されているというのが私の考えであり、このビジョン実現のためのプロセスや取り組み課題を、大きく4つに分けて整理しています。

また、「人がつくる。人でつくる。」は当社のブランドメッセージです。先にも述べましたように、真に価値のあるものは、人と人との信頼関係の中から生まれてきます。言い換えれば、企業の成長や信頼性は、それを構成する人の成長、信頼性の総体であると考えています。当社は、このブランドメッセージを役員・社員の行動基準とし、一人ひとりがレベルアップを果たしていくことで、当社ならではのものづくり、想いのこもったCSR活動を推進していきます。

## おわりに

建設業は、人々が生活していくために必要な社会資本を整備し、社会的財産を創造していく、社会性、公共性が高い産業です。私たちは、事業に対する誇りとともに、安心、安全で、快適な社会の構築に貢献するという使命感をもって活動していかなくてはならないと認識しています。今回の東日本大震災を経験して私が感じたことは、ステークホルダーの皆さまが当社に求めるものの中で最も基本的で大切なことは、建設物の品質や安全性を高めていくこと、つまり「ものづくりの強化」です。こうした認識のもと、今後も戸田建設らしさの根幹を外すことなく革新を続け、お客さまの心を捉える“真の営業力”をもって存在感を示していきます。

今後とも、本レポートをはじめとして、皆さまとのコミュニケーションをさらに深め、さまざまな取り組みを進めていきます。皆さまには忌憚のないご意見をお寄せいただくとともに、引き続きのご支援をよろしくお願いたします。

2011年9月





## 特集1 東日本大震災への対応

# 建設会社として

2011年3月11日、宮城県三陸沖を震源とする巨大地震が発生し、大津波が沿岸部に押し寄せました。戸田建設は、地震発生直後から速やかに対応に着手し、社会を支える建設会社として被災地の復興に向け全力で取り組んでいます。

### 震災発生直後から、対策本部にて速やかに対応

3月11日14時46分頃、宮城県仙台市にある戸田建設東北支店も大きな揺れに襲われました。天井まで届くような可動棚が倒れるなど社内は騒然とした状態になり、ライフラインが停止。しかし、揺れが治まり、落ち着きを取り戻すとともに、部門横断的な現地対策本部を立ち上げ、速やかに対応に着手しました。

時を同じくして地震発生直後、戸田建設本社も災害対策統括本部を設置。東北および首都圏における社員の安否確認、被災状況の把握、被災地支援の検討を実施しました。

翌3月12日、本社より、食料・水などの救援物資をトラック4台で東北支店に送り出すととも



全支店から集めた支援物資をトラックで輸送

に、先発隊として3名の応援社員を派遣。その後も各支店から救援物資を集め、それらは千葉県松戸工作所に集積して順次東北支店に配送しました。人的支援についても、3月15日には本隊として15名、その後は人員を補充、入れ替えをしながら延べ75名(7月末時点)を派遣しています。



社長が東北支店を訪れ組織としての支援を社員に約束

### 現地と連絡を密に、全社をあげて対応

現地での対応については、本社の災害対策統括本部と東北支店の現地対策本部が密接に連携して進めました。テレビ会議システムを活用して2つの本部を結び、連絡・調整を行いながら対応。なお、このテレビ会議は、仙台市の停電が解消した3月12日から毎日実施しました。

さらに3月30日には、全国の支店長を本社に集めて震災対策支店長会議を開催し、情報および意思の共有を図りました。また同日、本社に復興対策室を新設するなど支援体制を強化し、全社をあげて被災地の復旧に取り組みました。

### 建設会社として被災の調査・復旧に取り組む

復旧活動の最前線に立つ現地対策本部が最初に着手したのは社員の安否確認です。地震発生直後に、BCP(事業継続計画)の一環として導入済みの「安否確認システム」を発動。電話が通じないなどの混乱があったものの、3月14日10時まで

に全社員の無事を確認しました。

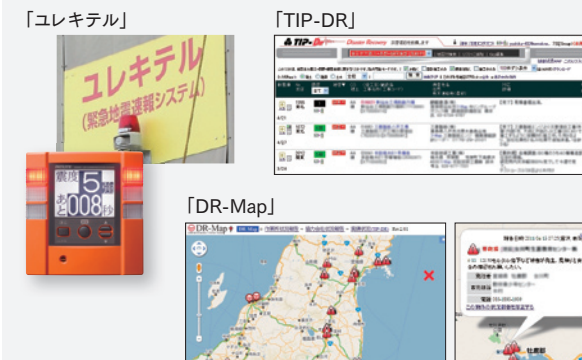
また、作業所、竣工物件の確認も即時に実施しました。震災発生翌日からは本格的な情報収集に着手し、本社や他支店からの応援社員と力を合わせながら、被災状況の診断や応急復旧工事を進めました。調査・復旧対応にあたった物件は、7月末時点で約1,250件に至っています。また、これらの調査・復旧については、当社が施工したもののみならず、お客さまのご要望に応じて、さまざまな対応を実施しています。

### 東日本大震災から学ぶこと

東日本大震災の対応では、あらかじめ策定していたBCPのしるみを活用できました。災害対策統括本部などの組織もその一環であり、安否確認システムや災害復旧支援システムなどもスムーズに稼働できました。また、2006年より毎年、本社・支店で総合震災訓練を実施しており、地震時の緊急対応においてもこれら訓練での経験が大きく役立ちました。

しかしその一方で、想定外とも言える大震災であったこともあり、不備な点も浮かび上がってきました。食料や燃料の不足などはその一例です。今後は被災地の復興に向けて継続的に取り組むとともに、これらの反省を踏まえてBCPのさらなる充実を図っていきます。

### 戸田建設のBCP支援システム



地震発生時、作業所・竣工物件の被害・対応状況の一元管理を行う災害復旧支援システム「TIP-DR」「DR-Map」のほか、作業所において作業員の安全を確保する現場地震速報システム「ユレキテル」など独自の開発技術により、災害復旧支援体制を整えています。

### お客さまの声

#### 迅速な対応や建物の耐震性の高さに大きな安心感を抱きました

学校法人 東社学園 国際マルチビジネス専門学校  
理事長・校長 野口 友子氏



東日本大震災発生後、本校建築工事現場責任者の方に迅速な建物診断を実施していただきました。その結果「若干の損傷はありますが、建物の使用には差し支えありません」との助言をいただき大変安心しました。近隣の建物と比較しても被害が軽く、学生たちに安心して授業を行うことができるのも、しっかりしたつくりの建物であるが故と感じています。

不幸にも保護者が亡くなった学生や自宅が被災した学生もおりますが、皆少しずつ元気を取り戻し勉学に専念しています。その姿を見るにつけ皆さまのサポートがあればこそこの思いと同時に、日々多くの目に見えない力に励まされています。

最後に、この震災によりお亡くなりになった方々に哀悼の意を表すとともに、これからの一日も早い復興をお祈り申し上げます。

### 社員の声

#### 「オール戸田」という組織の力で強い意志を持って復興を支援

東北支店 総務部長 神津 雄二



今回の震災では、初めて経験する巨大な地震であったにもかかわらず、東北支店では全員が無事で、即座に現地対策本部を立ち上げることができました。それが可能だったのも、BCPをはじめ緊急時の対応を全社員で共有できていたからだと思います。

震災直後は食料も乏しく入浴もできないような厳しい環境でしたが、本社からいち早く届いた救援物資や応援社員の支援によって速やかに対応することができました。救援物資についてはお客さまや協力会社、さらには市町村の避難所にもお届けしています。

見慣れた風景が一変してしまった被災地に立つと、正直気力が萎えそうになることもあります。そんな私たちにとって何よりの支えとなるのは、「オール戸田」という組織のバックアップ。この大震災を乗り越えるのだという強い意志を持続させ、戸田建設すべての力を合わせて復興に取り組んでいきたいと思っています。



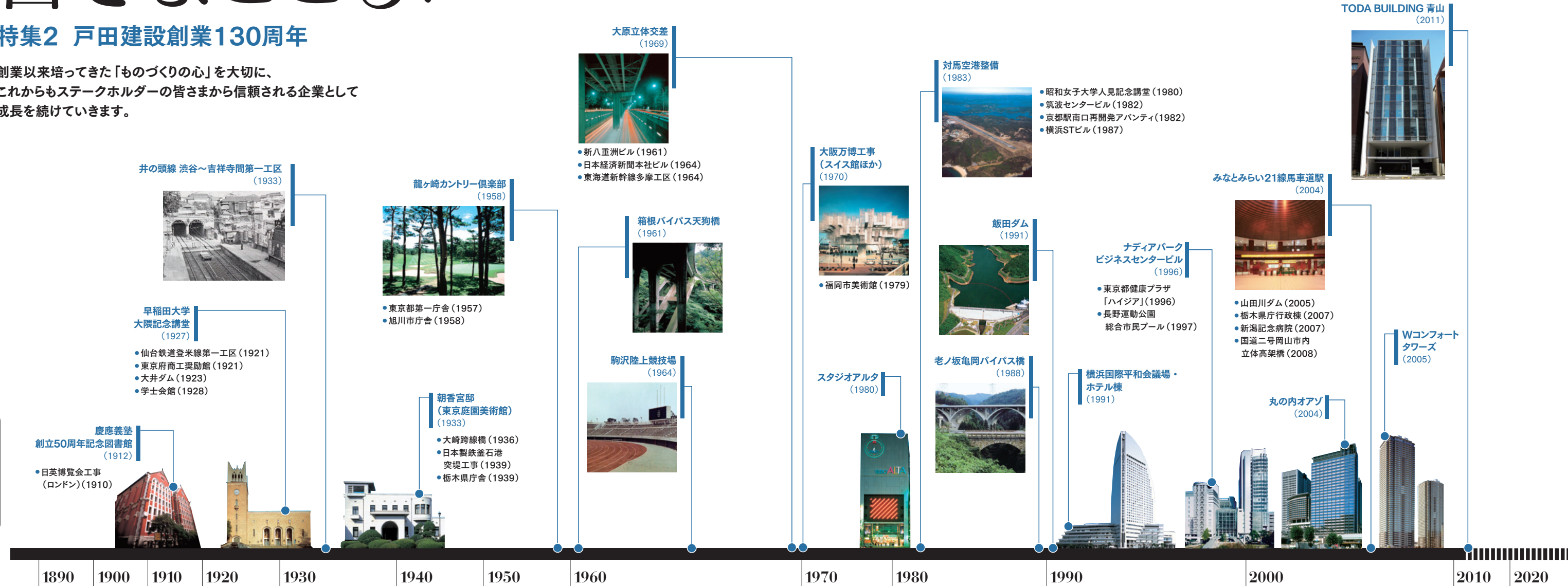
# 感謝を力に 皆さまとともに

## 特集2 戸田建設創業130周年

創業以来培ってきた「ものづくりの心」を大切に、  
これからもステークホルダーの皆さまから信頼される企業として  
成長を続けていきます。

2011年は、1881年(明治14年)に初代・戸田利兵衛が「戸田方」と称して請負業を始めてから130周年を迎えます。その間、当社は社会とともに歩み「建設を通じて社会福祉の増進に貢献する」を経営方針に掲げて、安心・安全で快適な社会の構築に向けた事業活動を続けてきました。この130年間の数多くの苦難を乗り越えることができたのは、ステークホルダーの皆さまからの信頼を得てきたからにほかなりません。これからも基本理念を忘れず社会から信頼され、期待される企業として成長を続けていきます。

戸田建設の代表作



CSRに関する戸田建設の主な取り組み


<p><b>戸田方</b></p> <p>1881年 請負業を開始</p>  <p>戸田利兵衛</p>	<p><b>戸田組</b></p> <p>1908年 戸田方を戸田組と改称</p> <p>1910年 日英博覧会 (ロンドン開催) 工事へ参加</p> <p>1924年 横浜営業所開設</p> <p>1924年 名古屋・大阪・福岡・仙台に営業拠点開設</p>	<p><b>株式会社戸田組</b></p> <p>1936年 株式会社戸田組に組織変更</p> <p>1940年 社報を創刊</p> <p>1946年 戸田組職員組合設立</p> <p>1949年 建設業法上の建設業者登録</p>	<p><b>戸田建設株式会社</b></p> <p>1963年 社名を戸田建設へ改称</p> <p>1965年 戸田建設災害防止協会発足</p> <p>1967年 経営方針策定</p> <p>1969年 株式公開</p> <p>1972年 本格的に海外進出開始</p> <p>1981年 創業100周年</p> <p>1981年 財団法人戸田育英会設立</p> <p>1982年 TQC推進中央委員会発足</p>	<p>1989年 人事制度に職能を反映</p> <p>1990年 戸田建設全国連合利友会発足</p> <p>1991年 完全週休2日制導入</p> <p>1994年 戸田建設地球環境憲章制定</p> <p>1994年 戸田建設行動規範制定</p> <p>1995年 建設業界初 ISO9001 認証取得</p> <p>1998年 環境保全活動報告書第一号 (CSRレポートの前身) 発行</p> <p>1999年 ホームページ開設</p>	<p>1999年 ISO14001 認証取得</p> <p>2000年 建設業界初 ゼロエミッション達成</p> <p>2001年 人事制度に成果主義評価導入</p> <p>2002年 企業倫理委員会、監査部ほか設置</p> <p>2002年 グリーン調達ガイドライン制定</p> <p>2003年 企業行動憲章制定、行動規範改定</p> <p>2005年 執行役員制度導入</p> <p>2006年 BCP(事業継続計画) 策定</p>	<p>2007年 内部統制推進室設置</p> <p>2007年 企業行動憲章、行動規範改定</p> <p>2008年 東京職労会発足</p> <p>2009年 人事制度に成果と行動評価導入</p> <p>2010年 ブランドメッセージ 「人がつくる。人をつくる。」発表</p> <p>2010年 エコ・ファースト 企業認定</p> 	<p>2011年 創業130周年</p> <p>2020年 CO<sub>2</sub>排出量40%削減目標</p>
--	---	---	--	---	---	---	--

世の中の動き

<p>1894年 日清戦争開戦</p> <p>1896年 第1回オリンピック開催</p>	<p>1902年 日英同盟</p> <p>1904年 日露戦争開戦</p> <p>1914年 第一次世界大戦開戦</p>	<p>1923年 関東大震災</p> <p>1929年 世界恐慌</p>	<p>1933年 昭和陸地震</p> <p>1939年 第二次世界大戦開戦</p>	<p>1945年 第二次世界大戦終戦</p> <p>1947年 ベビーブーム(～1949年)</p> <p>1955年 日本経済高度成長期(～1973年)</p> <p>1956年 水俣病発生</p>	<p>1964年 東京オリンピック開催</p> <p>1964年 東海道新幹線開通</p> <p>1968年 大気汚染防止法制定</p> <p>1969年 東名高速道路全線開通</p>	<p>1970年 日本万国博覧会開催</p> <p>1972年 札幌オリンピック開催</p> <p>1973年 第一次オイルショック</p> <p>1979年 第二次オイルショック</p>	<p>1982年 東北新幹線開業</p> <p>1985年 プラザ合意(急激な円高に)</p> <p>1989年 昭和天皇崩御。元号が平成に</p>	<p>1995年 阪神・淡路大震災</p> <p>1997年 京都議定書採択</p> <p>1998年 長野オリンピック開催</p>	<p>2005年 愛・地球博(日本国際博覧会)開催</p> <p>2008年 北海道洞爺湖サミット開催</p> <p>2011年 東日本大震災</p>
--	--	--------------------------------------	---	--	--	--	--	--	---

**130周年のロゴマーク**

130周年を記念したロゴマークのデザインを社員から募集。応募総数83件の中から、皆さまに支えられてきた感謝の気持ちを表現したこのマークが選ばれました。





## 戸田建設は、働く女性にとってどんな会社？

**越智** 私は人事部にいますが、仕事をしていて感じるのは、自分の見えないところでいろいろ配慮されているということ。そのときはただガムシラなのですが、後から振り返ってみると、上司や先輩がちゃんとサポートしてくれていたのだなと気づくことが良くありますね。

**岩本** 確かに社員一人ひとりを大切にすることがありますね。でも、それは「女性だから」というのではなく男女みんな同じだと思います。私は、以前は建築設計事務所に勤めていたのですが、働きやすさということでは戸田建設の設計部門の方がずっと良いと実感しています。

**澁谷** 私も設計部門ですが、女性だからといって働きにくいと感じたことはないです。それだけ公平な会社なのだと思います。

**天笠** 男女の分け隔てなく働きやすい職場ということでは、私がいる技術部でも同じですね。澤村さんや天笠さんのような作業所ではどうなのでしょう？

**澤村** 私は土木の作業所にいますが、自分の成長に合わせて仕事を任せてもらっているという実感があります。ただ先輩や後輩を見ていて思うのですが、作業所での働きやすさというのは、本人がその作業所に適合できるかどうかなのです。ですから、男女の違いは関係ないと思っています。

**天笠** 私の場合は建築の作業所ですが、現在の作業所では協力会社の職人さんを含め延べ数百もの人と一緒に仕事をしています。そんな作業所での私にとっての働きやすさの規準は、

「笑顔」ですね。いつでも笑って話し合いながらコミュニケーションをとるようにしています。時には職人さんに怒られることもあります。そんなときこそ積極的に話をするようにしています。

**岩本** 作業所では特にそうだと思うのですが、戸田建設の場合、女性社員の比率が低いこともあって、「女性だから」と妙に意識してしまう男性社員がいますよね。

**鈴木** そう、確かにそんな空気を感じる場合があります。残業していても女性の私にだけ「早く帰っていいよ」と声をかけてくれる人がいたりして。そういう気遣いは不要かも……。

**天笠** 私は、そんなこと言われたらすぐ帰ります(笑)。

**澤村** 私も!(笑)

**澁谷** 逆にたいては忙しくなくても、みんなが残業しているので帰りにくいという場合もありますね。そんなときは周りに流されずに帰ってしまう勇気も必要だと思います。

## 女性にとって利用しやすい社内制度とは？

**越智** 岩本さんは、育児休暇から戻ってきたばかりですね。

**岩本** 産前・産後休暇と育児休暇を合わせると、状況によって幅はありますが、最長で21ヵ月くらい休めます。私の場合は、運よく保育所が早く見つかったので約4ヵ月で職場復帰しました。

**天笠** 育児休暇にはとても関心があるのですが、実際利用してみてもうでしたか？

**岩本** 制度としてはとても充実していると思います。でも、気になるのは、復帰してから仕事と育児を両立できるかどうか……。正直ちょっと悩みそうですね。

**澁谷** やっぱり仕事が忙しいということが？

**越智** これは建設業界全体の課題でもあるのですが、労働時間については、まだ改善する余地があると思います。

**澤村** 会社にベビーシッターがいれば便利だと思うのですが。

**天笠** 私も! 事務所にベビーシッターを置いてもらえますかと作業所長に相談したこともあります。仕事と育児の両立については、戸田建設の女性にはまだ実践している人が少なく、正直不安な面もあるのですが、岩本さんのような先輩が増えると勇気づけられますね。

**鈴木** 制度的な充実もですが、気軽に話せる相談窓口があると便利です。女性の声を汲み上げてくれる環境があるので、私たちからもっと発信していった方が良いと思います。

## 戸田建設が変わっていくために大切なことは？

**越智** 現状では女性社員の数がまだ少ないこともあって、それぞれの職場で女性一人ひとりが頑張っているという感じがありますね。このワーキンググループのように、みんなで意見を出し合って頼り合える環境って大切ですよ。

**澤村** 私自身、ワーキンググループに参加して良かったと思うのは、社員の声を聞いて変わっていくという意識が戸田建設にあることを実感できたことです。

**澁谷** 女性だから男性だからというのはなく、戸田建設がもっと働きやすい会社が変わっていくために、みんなでどんどん意見をぶつけ合うことが必要だと思います。個人的には、忙しいばかりでなく、もう少し心に余裕を持って仕事に取り組める会社

を目指してほしいですね。

**岩本** ワーク・ライフ・バランスという言葉がありますが、良い仕事をするためにはオフタイムも大切。私たちの仕事は、人や社会のための「ものづくり」なので、自分たちの生活が豊かでなければ良い仕事はできないと思うのです。それに仕事と子育ての両立にしても、これからは女性ばかりでなく男性にとっても重要な問題になるはずですよ。

**鈴木** 会社が変わっていくためには、社員の意識も変わらなければならないと思います。そんな意識改革についても、私たち女性の視点からどんどん発信していきたいですね。

## 有識者の声

### しくみづくりを推進し より人を大切にする会社へ

(株)TBSテレビシニアコメンテーター  
川戸 恵子氏



活き活きと働いている皆さんの姿が思い浮かびます。「一人ひとりを大切にする会社」いいですね。女性でも男性でも上司や同僚の「見守り」があって初めて力を発揮できるものです。仕事と育児の両立は「制度の充実とともに気軽に相談窓口がある」という鈴木さんのご意見は大賛成。と同時に「イクメン」育てにも力を入れてください。

\*川戸氏には2010年12月14日に開催した勉強会(ワーキンググループ主催)にご参加いただきました。

## 特集3 ステークホルダーダイアログ

# 女性から見た戸田建設

戸田建設には女性の活躍促進のために活動するワーキンググループがあります。今回はそのメンバーに集まってもらい、働きがいや働きやすさについて聞きました。(開催日:2011年6月14日)



本社 人事部  
越智 貴枝

関東支店 建築工事業部  
天笠 まや

本社  
建築工事技術部  
鈴木 祐美子

東京支店 土木工事業部  
澤村 淳美

本社 構造設計部 主管  
澁谷 亜紀子

本社 計画設計部  
岩本 浩子

ホームページで  
取り組みを紹介しています

▶活き活きと働くために  
<http://www.toda.co.jp/csr/human/employee.html>



# 事業マネジメント

## 「想い」に応えるトータルソリューション

戸田建設はステークホルダーとのコミュニケーションを通して、多様化・複雑化する建設物へのニーズや期待を把握し、建設ライフサイクル全般でソリューションを提供しています。各ステージにおいて大切にしているのは「人がつくる。人でつくる。」の姿勢。これは高い品質を追求するというだけでなく、そこで働く従業員や地域住民の方々など全てのステークホルダーの満足につながるCSR活動でもありと考えています。

公正で透明性の高い入札

アセットマネジメント

地球温暖化問題への対応

長寿命の建物

地震に強い建設物

ライフサイクルコスト低減

高い品質の提供

建設廃棄物の発生抑制

生物多様性への配慮

土壌汚染対策

お客様の潜在的ニーズを発掘し、魅力的な事業計画と最善のソリューションを提案します。

- ▶公正かつ適正な取引
- ▶要求品質の把握
- ▶環境配慮提案



### 企画・提案

環境配慮設計

お客様のニーズを的確に把握し、機能性に優れ、安心して安全な施設計画を提案します。

- ▶品質管理活動
- ▶環境配慮設計
  - P15 CO<sub>2</sub> 排出量の削減/ゼロエミッション
- ▶最適構工法提案



### 設計

お客様にいつまでも満足していただける、品質・性能・安全性を備えた施設を提供します。

- ▶安全管理活動
- ▶協力会社との協働
  - P17 協力会社との連携
- ▶近隣地域での社会貢献
  - P19 地域社会との共生
- ▶品質管理活動
  - P14 品質管理
- ▶環境配慮施工
  - P15 CO<sub>2</sub> 排出量の削減/ゼロエミッション



### 施工



### 解体

近隣地域の方々や建設作業員の安全第一を考え、既存施設の解体工事を実施します。

- ▶環境配慮型解体工法の提案
- ▶有害廃棄物管理

有害廃棄物の適正な処理

近隣への騒音・振動・粉塵対策



### リニューアル

社会的ニーズ対応や資産価値向上に向け、既存施設の高度化と多様化対応を実現します。

- ▶施設診断/設計/施工
- ▶環境配慮施工

省エネルギー化

環境性能の向上

耐震性の向上

BCP対応

低炭素・省エネルギー



### 維持管理

施設管理者や利用者の満足度向上に向け、最適な施設運営管理を支援します。

- ▶顧客満足度の向上
- ▶ファシリティーマネジメント

雇用の創出

ワーク・ライフ・バランスの実現

スタッフ業務・人材育成

全社的な観点から経営資源の適正化を図り、最前線の“ものづくり”の活動を支援します。

- ▶コーポレート・ガバナンス
- ▶コンプライアンス
  - P21 コンプライアンス
- ▶リスク管理/内部統制
  - P22 リスク管理/内部統制
- ▶オフィス内の環境配慮業務
  - P18 社内の意識改革
- ▶広報/IR活動
- ▶人事面での取り組み
- ▶地域での社会貢献

ライフサイクルコストを低減する技術

安心・安全な工事の実現

地球環境に優しい技術

安心・安全を実現する技術

### 技術開発

現在の社会的ニーズへの対応、将来の健全な地球環境・都市空間の創造に役立つ技術を開発します。

- ▶品質、機能を向上させる技術
- ▶安心、安全を実現する技術
  - P16 地震災害への備え
- ▶地球に、人間に優しい技術



## 数字で見る戸田建設のいま

戸田建設の「らしさ」をデータでご紹介します。

### 働きがい

#### 安全第一に努めています

2010年度は全国の作業所で「死亡災害ゼロ」を達成しました。今後も初心を忘れず、お互いのコミュニケーションを通じ社員一丸となって安全第一に努めていきます。

### 堅実・公正

#### 本年は創業130周年

2011年は1881年（明治14年）に初代・戸田利兵衛が「戸田方」と称して請負業を始めてから130年を迎えます。これからも社会とともに歩み、安心・安全で快適な社会の構築に向けた事業活動を続けていきます。

### 働きがい

#### 長く働ける職場を目指しています

当社の平均勤続年数は19.8年。人材のダイバーシティへの取り組みを推進し、社員一人ひとりが資質、能力を最大限発揮できる職場環境の提供に努めています。また、女性にとって働きやすい環境の創出に向けて、女性を中心としたグループによる活動を進めています。

### ものづくり

#### 街づくりに幅広く貢献します

当社は重点分野として医療福祉、教育、事務所、生産施設、都市インフラをあげています。2011年3月期の建設受注高に占める割合は76%です。今後もこの分野をオール戸田で深耕していきます。

### コミュニケーション

#### 世界各地で事業を展開しています

2011年3月期の海外受注高は、ブラジル、中国の現地法人等の増加により149億円になりました。今後日本国内の建設投資が減少していく中、東南アジア地域を強化し受注高200億円を目指します。

### 働きがい

#### 戸田ブランドは人がつくりま

当社のものづくりを支えるのは、総勢4,110名\*の社員一人ひとりです。ステークホルダーの方々の想いと真摯に向き合い、気持ちをひとつにして取り組んでいくことで、真に価値あるものをつくり上げていきます。

### ものづくり

#### 建設現場のCO<sub>2</sub>削減に取り組んでいます

「環境アクションプラン」に基づき建設物のライフサイクルの各フェーズでの取り組みを推進しています。2010年度の施工段階におけるCO<sub>2</sub>排出量の削減率は1990年比26.6%（施工高1億円当たり）でした。今後もエコ・ファースト企業として継続して削減に取り組んでいきます。

### 働きがい

#### パートナーを大切にします

当社のブランドは協力的会社とともに作り上げたものです。全国の支店ごとに設立している職長会では、職長間で情報共有し業務改善につなげていくことで、作業所の生産性向上に取り組んでいます。職長会の会員数は793名\*にのぼります。

### コミュニケーション

#### 全国各地で活動しています

当社の建築工事および土木工事の作業所は全国各地にあり、その数は約470か所\*（小口工事等を除く）。それぞれの作業所では、自然環境とのより良い関係を追求するとともに、地域の方々とのコミュニケーションを大切に活動しています。

## ものづくりへの想いー品質管理

「他社よりも高い品質を提供する」という品質方針を掲げ、「人」と「システム」の両面からたゆみない取り組みを進めています。

一人ひとりの想いが凝縮され、戸田建設の「品質」はつくり込まれます。



執行役員  
本社 建築工務部長  
宮崎 博之

## 作業所の掃除から始まる品質づくり

戸田建設では、品質管理の方針として「戸田建設は他社よりも高い品質を提供する」という言葉を掲げています。それは、「品質において決して妥協はしない」という強い意思表示でもあります。品質へのこだわりについて、宮崎は次のように語ります。

「安全やコスト、工期など、建築や土木の作業所ではさまざまな取り組みが求められますが、私たちの仕事の成果として最後に残るものは「品質」です。お客さまや社会への責任を果たすためにも、品質は建設会社にとって何よりも重要なものなのです」  
全国の建築作業所管理業務を管轄する立場にある宮崎は、ほぼ建築施工の現場一筋にキャリアを積んできました。

「私が新入社員の頃は、ほうきとちり取りを持って毎日のように作業所の掃除をさせられました。壁の裏側など建物が完成してしまえば見えなくなるような場所まで徹底して掃除しました。品質の大切さを身をもって学んでいったのです」

当社では、品質管理に対する意識向上のための教育や、それをサポートするしくみづくりに大きな力を注いでいます。その姿勢は、社員ばかりでなく、戸田建設の品質をつくり込む上で欠かせない存在である協会の作業員たちに対しても同じです。

「当社の「品質」は、協会の「品質」でもあるのです。職人さんたちにいかに気持ちを込めて誇りを持って作業をしてもらうか。職人さんたちの想いに応えられる建設会社であり続けたいと思っています」

## ものづくりへの誇りが品質を支える

このような品質管理に対する姿勢や取り組みは、建築施工ばかりでなく土木施工部門でも同様です。事前に施工上の課題や対応策の検討を行う「設計照査・工法検討会」や、発生したトラブルの情報を共有して間違いのない解決策を見出すための「QE情報報告書」などのしくみを整えて、各作業所と一体となって品質管理の徹底を図っています。さらに当社では、PDCAサイクルによる行動を基本とした品質マネジメントシステムの継続的な改善など、全社をあげて品質管理体制の充実を進めています。

「私がいつも口にしてるのは「品質は報われる」ということ。どんな小さな取り組みでも丁寧に積み上げていけば、それは必ず品質という成果になって現れ、お客さまや社会に認められるものなのです」

社員や作業員たちが抱く、ものづくりへの誇り。その想いをしっかりとカタチにしていくためのしくみ。――戸田建設は、「人」と「システム」の両面からたゆみない品質管理に取り組んでいます。

ホームページで詳しく紹介しています

▶ 品質管理への取り組み  
<http://www.toda.co.jp/csr/create/quality.html>

\* 数値は2011年3月現在



## ものづくりへの想い - CO<sub>2</sub>排出量の削減 / ゼロエミッション

「2020年にCO<sub>2</sub>排出量40%削減(1990年比)」に向けた環境アクションプランを推進し、ものづくりの現場でさまざまな取り組みを展開しています。

最先端の建物だからこそ、  
ものづくりの原点にこだわりました。

東京支店 建築工事1部  
作業所長

須藤 純

### 環境最先端ビルが作業所長としての初仕事

2011年3月、東京都港区に完成した「TODA BUILDING 青山」は、戸田建設が自社事業として取り組んだ環境最先端テナントビルです。環境性能と快適性の両立を追求し、透過型太陽光発電パネルや、地中熱を熱源に利用した輻射天井空調システムをはじめ、50に及ぶ環境配慮技術を採用。建物の運用段階でのCO<sub>2</sub>排出量の40%削減(従来の事務所ビルの平均値比)を実現しています。須藤は、このビルの施工を統括する作業所長を務めました。

「環境配慮技術の中でも特に困難だったのが、地中熱を空調システムに利用する“地中熱利用杭”の打設でした。当社としても初となる先進技術のため、あらかじめ違う敷地で試験を実施し、スピーディーかつ安全な工法を考え抜きました」

実は同ビルは、須藤にとって作業所長としての初仕事。社内外から注目を集める建物だけにプレッシャーも大きく、そしてやりがいも大きかったと言います。

「作業所長としては、環境配慮技術はもちろん、建物の基本機能や施工中の安全対策などにこだわりました。最先端の建物だからこそ、基本を大事にしたかったのです。ものづくりの原点に立ち戻り、初心の気持ちで挑みました」

### 創意工夫で完全ゼロエミッションを達成

環境への取り組みは建物の環境性能ばかりではありません。同ビルでは当社独自の低炭素施工システム「TO-MINICA (TODA Minimum Carbon Construction)」を導入し、施

工段階でのCO<sub>2</sub>排出量26%削減と、混合廃棄物ゼロという完全ゼロエミッションを実現しています。

「このビルで社員や職人さんたちと一緒に創意工夫したノウハウを、今後は全国の作業所で共有できたらと思っています」須藤は、今回の経験を活かして、さらに最先端のビルの施工を手がけてみたいという目標を抱いています。環境先進企業を目指す当社では現在、同ビルをさらに進化させたZEB(ゼロ・エネルギー・ビル)構想が進行中。近い将来、その取り組みと須藤の夢が再び交差するかもしれません。

#### 戸田建設の環境技術のこれから

「TODA BUILDING 青山」は、中規模のテナントオフィスビルとして初となるCASBEE\*のSランク認証を取得した、ほかでは例を見ない「環境最先端テナントビル」です。今後は、先進技術である「ダブルスキナーテンウォール」については季節を通じた効果の検証を、「透過型太陽光発電パネル」については体感・快適性の検証を、「地中熱利用設備」については採熱量の比較検証を、「光ダクト」については採光部照度と放光部照度の計測・比較などの各種検証を行い、環境技術の確立とともにZEBの実現を目指していきます。

本社 計画設計部 主管 護摩堂 淳

ホームページで詳しく紹介しています

- ▶ 環境理念と推進体制
- ▶ 重点活動項目 / 環境会計
- ▶ 建設廃棄物の削減
- ▶ 温室効果ガスの発生抑制
- ▶ グリーン調達推進

<http://www.toda.co.jp/csr/create/index.html>

\* 建築環境総合性能評価システム。通称「キャスビー」。建物の環境側面を総合的に評価し、環境に対してどの程度優しいかを測る物差しとして開発された評価ツール。Sランクを最上位として5段階で格付け。

## ものづくりへの想い - 地震災害への備え

安心・安全の向上は、暮らしや社会の基盤となる建築物にとって最大のテーマ。地震災害に備えて、さまざまな技術やしくみの開発に取り組んでいます。

私たち建設会社の使命は、  
耐震技術を限りなく進化させていくこと。

技術研究所  
建築振動チーム 主管

渡壁 守正

### メカニズムの研究から生まれた新たな耐震工法

免震や制震といった先進の技術からBCP(事業継続計画)をはじめとするしくみまで、戸田建設は地震災害に備えたさまざまなソリューションを提供しています。その中でも最近、ユニークな技術として注目を集めているのが「天井耐震クリップ工法」です。当社技術研究所の一員として、その開発を担ってきた渡壁は次のように語ります。

「近年、地震の被害として建物の天井落下がクローズアップされています。建設物の構造体などと違って、天井など非構造部材についてはまだ建築基準法で具体的な規定はなく、天井の耐震対策の整備が急がれているのです。当社では、国土交通省による“建築基準整備促進補助事業”を受託して、天井落下のメカニズムの解明を進めてきました。その成果として開発されたのが“天井耐震クリップ工法”です」

メカニズムの解明では、現地での調査や大規模な実験など試行錯誤の連続でしたが、ゴールとしてたどり着いた工法はとてもシンプル。天井を構成する主要な部材である野縁と野縁受けをつなぐ接合部分に、新たに開発した天井耐震クリップをはめ込むだけで、在来工法天井と比べて約2倍の揺れに持ちこたえることが可能となります。

「たとえどんな高度な技術を開発しても、コストが高かったり、作業所での施工に手間がかかったりするようでは広く普及することは望みません。シンプルかつ低コストの工法こそが重要なのです」と、渡壁は言葉を強めます。

### 卓越した技術だからこそ、広く社会に

さらにもうひとつ、「天井耐震クリップ工法」のキーワードをあげるとするなら「オープン」ということになるでしょう。当社では、この独自工法を独占することなく広く普及を図っており、最近ではほかの建設会社でも利用され始めています。

「このような社会の安全に貢献する重要な技術はオープンに広めていくべきというのが私たちの考え方なのです。研究開発を通して社会に貢献するという強い使命感と誇りが仕事に対するモチベーションであり、プロフェッショナルとしての自覚を高めています」

地震災害への備えは、当社技術研究所にとって最優先とも言える重要テーマです。その分野の研究者のひとりとして、渡壁は次のように語ります。

「自然現象が相手であるために、私たちの研究では未だ解明されていない事柄も多いのです。今回の大震災での経験を謙虚に受け止め、そこから見えてくる新たな問題を解決することにやりがいを感じながら、社会貢献の一翼を担うという責任を胸に、さらに安心・安全なものづくりに取り組んでいきます」

ホームページで詳しく紹介しています

- ▶ 安心・安全への取り組み  
<http://www.toda.co.jp/csr/create/security.html>
- ▶ 技術INDEX  
<http://www.toda.co.jp/tech/index.html>



## 働きがいへの想い－協力会社との連携

戸田建設のものづくりは数多くの想いによって支えられています。働きがいのある職場環境づくりのために、協力会社と一体となった取り組みを推進しています。

ものづくりへの真摯な想いが  
ひとつになれる場をつくりたい。



東京支店 建築安全部長  
伊原 広和

## 生産性の向上を支える当社独自の「職長会」

建築物は、一般的に約30職種、40社以上の協力のもとにつくり上げられていきます。各作業所でこれらの職種もしくは協力会社ごとのリーダーを務める「職長」は、戸田建設のものづくりの要とも言える存在です。

「作業所の生産性を高め、高品質で安全な施工を推進するためには、職長同士のコミュニケーションが非常に重要になります」

そして、そのコミュニケーションの場となるのが、各作業所ごとに結成する「職長会」。伊原は作業所業務に従事していた2003年頃から、職長が集う交流会を通じて作業所における職長会の意識向上に取り組んできました。

「交流会で知り合った職長たちと、どうしたら働きがいがあるか、元気で明るい作業所運営ができるかをずっと話し合ってきました。そんな中から生まれたのが東京支店管轄の各作業所の職長会を連携させた、より大きな職長会をつくるという考えだったのです」

こうして2008年に設立されたのが「東京職長会」。あらゆる情報を共有し改善を重ねながら、お互いの発展に寄与することを目的として、160名体制の活動が始まりました。同様の活動は国内全支店に広がり、現在の会員数は全国で総勢793名。これほど大規模な職長会は他社にはなく、当社独自のものです。

## 社員も職長も一緒に意見をぶつけ合える場づくり

職長会の入会にあたっては独自の認定制度を設けており、会員となった職長は青色に金ラインが入った専用ヘルメットを

被ります。その青いヘルメットは、職長たちの誇りを象徴しているのです。当社では、職長たちの想いに応えるために、独自の奨励賞や優良技能者手当制度を設けるなど賃金改善にも努めています。

「ものづくりへ寄せる想いは、作業所で働く誰もが一緒。職長会をさらに発展させて、職長も社員も一緒になって意見をぶつけ合うより良い現場にしていきたいと思っています」

### 職長の声



シャインズ(株)  
寺本 芳治氏

われわれが目指すのは作業所の空気を変えていく職長会。そのためには、戸田建設と協力会社の積極的な参加が必要であり、「東京職長会」の発足は深い意義があると感じています。

「東京職長会」は、単一作業所内の活動ではできなかったほかの作業所の職長会とのコミュニケーションがとれる場です。ここでの活動を通じて個人の成長を促し、自分の作業所で力を発揮することが一番大切であると思います。自分自身も誇りと自覚を持ち続け日々頑張りたいと考えています。

ホームページで詳しく紹介しています

▶ 安全で快適な職場環境の実現  
<http://www.toda.co.jp/csr/human/safety.html>

▶ 協力会社とのパートナーシップ  
<http://www.toda.co.jp/csr/human/partnership.html>

## 働きがいへの想い－社内の意識改革

働きがいがある、元気で明るい職場環境づくりの基本はコミュニケーション。社員自らが主役となってさまざまな取り組みを進めています。

丁寧な説明を繰り返し、  
エコ意識の改革に  
取り組んでいます。



本社 建築工務部  
久原 貴代

東京支店 総務部  
一寸木 絢子

本社 経理部  
小幡 恵子

本社 土木企画部  
鈴木 麻友

本社 総合企画室 主任  
富田 多加子

千葉支店 建築工務部  
櫻井 剛史

## 女性社員が主体の「ECO・リーダープロジェクト」

戸田建設では、オフィス内でのエコ活動・エコ意識の向上のために「ECO・リーダープロジェクト」を進めています。その特色は、女性のメンバーが主体となった、ボトムアップからの取り組み。代表6名に活動の内容と成果を振り返ってもらいました。

**小幡** まずゴミのリサイクルということで、これまでも行っていた分別回収を見直してさらに徹底しています。オフィス内にエコステーションを設置して、点在していたゴミ箱を集約しました。特に全体の80%を占める紙系ゴミについては5種類に細分化しリサイクルしています。その結果、年間で約85%のコスト削減を見込んでいます。

**久原** さらにリデュース活動としては、各社員にマイカップ、マイ箸を持参してもらい、社内で使用していた紙コップや割り箸を全廃しました。コーヒーなどの自販機もマイカップ対応のものに替えています。また、マイハンカチを使ってもらうようにして、トイレのジェットタオルも2010年10月に撤去しています。

**鈴木** 事務用品のリユースを推進するために、従来からあったリユースコーナーを大幅にリニューアルしました。扱う品目を増やしたほか、エコ情報を紹介したり作業服のリユースを検討しています。

**櫻井** オフィス内の温度を下げるために、屋上でゴーヤを育てるなどの緑化にも取り組んでいます。また、地元の小学生を対象に見学会を開催するなど、地域社会とのコミュニケーションでも一役買っています。

## 意識の改革とともに、ECOからCSRへ広がる活動

プロジェクトが発足したのは2010年7月。スタート当初はいろいろな難題もありましたが、1年が過ぎた現在、社内のエコ意識も高まり、メンバーのみんなは確かな手応えを感じています。

**一寸木** 初めてのことも多く、活動をどのように推進していくか、社員の理解をどう得ていくか、メンバー内で何度も話し合いました。社長からは「環境については地球も当社も時間が無い、思い切ってやりなさい」と声をかけられ、勇気が湧きました。

**久原** しっかり説明して、コスト面などメリットを理解してもらおうと、皆さん前向きに取り組んでくれて、最近では意識がすごく変わってきましたね。

**櫻井** 現在では本社ばかりでなく、各支店やグループ会社にもエコ活動が広がっています。

**富田** チームワークも良くて、プロジェクトを通じて後輩たちが成長する姿を見られたのも、私にとっては楽しかったですね。これからは本社周辺の清掃やボランティア活動を通して、ECOからCSRへと活動を広げていきたいと話しています。

ホームページで詳しく紹介しています

▶ 生き活きと働くために  
<http://www.toda.co.jp/csr/human/employee.html>

▶ 環境理念と推進体制  
<http://www.toda.co.jp/csr/create/vision.html>



## コミュニケーションへの想い - 地域社会との共生

地域社会とのコミュニケーションに務め、建設会社としての事業や社会貢献活動を通じて、「良き企業市民」としての役割を果たしていきます。

作業所ではいつでも、  
人々の記憶に残る仕事を心がけています。



千葉支店 土木部 作業所長  
小川 敦史

### 建設と自然環境のより良い関係を求めて

圏央道茂原長南IC改良工事の作業所は、千葉県長生郡の田園地帯にあります。その作業所長を務める小川は工事について次のように語ります。

「所長として最も力を入れているのは、自然環境や周辺の営農者・住民への配慮です。私自身が責任者になって地元説明会を5回開催し、地元の人たちとの密接なコミュニケーションをとりながら進めています」

工事区域には希少生物が棲む農業用の溜池が隣接しており、事前に水質・底土の調査を実施するなど、自然環境に配慮しながら工事を進めました。希少動植物の移動やオオタカ保護のための騒音対策も実施。さらには、工事に出る排水を農業用水として利用したいという地元の要望に応じて排水浄化のためのプラントを設置するなど、さまざまな取り組みを実施しました。

小川は、こうした取り組みを「戸田建設の作業所なら当たり前のこと」と言います。

実際、これまでの作業所でも、産卵に上陸するウミガメのために照明を工夫したり、ホタルが棲む川を守るために水質改善に取り組むなど多くの実績があります。建設工事は自然環境や周辺の人々の暮らしに密接にかかわります。だからこそ当社は、きめ細かな配慮のもとに施工を進めています。

### 地元からいただいた手書きの感謝状

周辺の地域では小川のことを親しみを込めて「親方」と呼ぶ人がいます。「どうもあの出来事まで、私を戸田建設の社員で

はなく、職人さんたちの“親方”と思っていたらしいのです」と小川は笑います。

その出来事とは、この土地を管理している地元の整備組合から小川に贈られた手書きの感謝状です。一緒にお米1俵と日本酒もいただきました。

「自分たちの仕事でそれだけ地元で認めてもらえたのかと、本当に涙が出るくらい嬉しかったです。私にとってかけがえない宝物となりました。その感謝状に名前を書き込む段階になって、私が戸田建設の社員であることに初めて気づいた人も多かったようです」

周辺地域では高齢化が進み、里の手入れもままならないという状況がありました。小川たちは地元で協力し、溜池のまわりの草刈りや池の手入れをお手伝いしたり、台風で倒れて交通の妨げとなった木々を撤去するなどして地域に貢献してきました。そんな積み重ねが地域との太い絆を築いたのです。

小川は、建設の醍醐味を「記録に残る仕事」と語ります。そしてもうひとつ、「人々の記憶に残る仕事」であることもその大きな魅力でしょう。

ホームページで詳しく紹介しています

▶ 地域社会とのつながり  
<http://www.toda.co.jp/csr/communication/society.html>

▶ 生物多様性への対応  
<http://www.toda.co.jp/csr/create/biodiversity.html>

## コミュニケーションへの想い - グローバルな地域貢献

当社の事業活動は国内ばかりでなく、グローバルに広がっています。現地の人たちとのコミュニケーションを大切に地域貢献活動を進めています。

微笑みの国タイで  
私たちが笑顔をつくっています。



国際支店 支店長付  
タイ戸田建設(株) 出向  
池内 孝直

### 文化は異なっても、仕事の基本はコミュニケーション

戸田建設は、経営戦略のひとつとして「海外事業の強化」を掲げ、世界各地で事業を展開しています。池内が駐在するタイも積極的に市場開拓を進める国のひとつです。

「日系民間企業の現地工場の建設が主な仕事です。私の担当は、タイ北部のチェンマイ周辺の作業所が中心。現地の協力会社と連携して、品質や安全、工期の管理を行っています」

現地スタッフとは、タイ語と日本語、英語の3つを交えながらやりとりしています。最も頭を悩ますのは、やはりこのコミュニケーション。

「細かなニュアンスまではなかなか上手に伝えられなくて苦労します。それに仕事の進め方や考え方にも違いがあって、最初の頃は戸惑いました」

日本とタイそれぞれの長所を活かすために、時にはジョークも交えながらお互いに意見を出し合い、円滑な仕事のスタイルを模索しています。

### 現地の人たちと一緒に取り組む地域貢献活動

事業の拡大とともに、地域貢献活動にも力を注いでいます。「仏教の盛んなタイでは寄付や施しの意識がとても高いのです。東日本大震災のときも現地スタッフが中心となってすぐに募金活動を始めました」

タイの洪水被災者への支援やチェンマイ近郊での河川清掃など、活動の輪も少しずつ広がっています。2010年11月には、キングモンクット工科大学の講師 大西卓哉氏のご紹介で、バ

ンコクのデザインフェスティバルで使用した太陽光パネルを再利用して、山間部の小学校に寄贈・設置しました。

「車両が途中までしか入れない山頂にある小学校まで、当社スタッフをはじめ5名が設置に向かいました。電気が普及していない小学校でしたので、先生や生徒たちにとっても喜ばれました」

戸田建設の仕事は、人と人との信頼関係があって動き始めます。これからも世界の各地で、現地に根ざした地域貢献活動を進めていきます。

パートナーの声

Voice



キングモンクット工科大学 講師  
大西 卓哉氏

私が主宰を務める「ENERGY MEET」とともに「バンコクデザインフェスティバル」へ出展いただきありがとうございます。また、ソーラーパネルと設置フレームをJo-Ma-Lo-Lue-La(ジョ・マ・ロ・ルー・ラー)という電気がない山間部の小学校に寄贈・設置していただいたことで、学校関係者や児童たちは大変喜んでいました。フェスティバルへの展示活動だけに終わらず、展示品の有効利用ができたことは、皆さまのご支援あってのことだと感謝しております。

ホームページで詳しく紹介しています

▶ 海外での活動  
<http://www.toda.co.jp/csr/communication/overseas.html>



## 堅実・公正への想い－コンプライアンス

ステークホルダーの皆さまからの信頼に応えるために、社員一人ひとりが倫理観に基づいた行動を実践できる環境づくりを進めています。

働きがいのある会社であること。  
それがコンプライアンスの基本です。



執行役員  
本社 総務部長  
大友 敏弘

### 社員一人ひとりが日々実践していくために

ステークホルダーの皆さまから信頼される会社であるためには、法令を遵守し社会倫理に基づく行動を実践するコンプライアンスも欠かすことのできない取り組みです。

戸田建設では、企業倫理委員会を中心にコンプライアンス体制の整備を進めています。社員一人ひとりが実践していくための指針として「戸田建設 行動規範」を制定。また、日頃の行動に反映するように、いつでも携帯できる「戸田建設の企業理念（コンプライアンス・カード）」を全役員・社員に配布しています。さらに、小冊子や社内ネットワークを活用した情報発信、階層別研修やe-ラーニングシステムによる企業倫理研修、法務部による法令教育など、周知徹底と意識向上を図るためにさまざまな活動を進めています。

これらの取り組みについて、総務部長の大友は次のように話します。

「コンプライアンスを徹底していくためには常に体制の改善に取り組み、継続的に情報を発信することが重要となります。最近では、総務部や法務部への問い合わせや相談も増加し、確実に意識が高まっていると感じています」

当社では、コンプライアンスへの社員の意識を把握して活動にフィードバックするために、毎年1回、「企業倫理アンケート」を実施しています。7回目を数える2011年の調査では、「コンプライアンスを心がけている」という回答が75.2%に達しています。

### 誇りを持って社会に貢献したい想いがあれば

もちろん、体制の整備は重要ですが、コンプライアンスの核は社員一人ひとりの想いにあると、大友は話します。

「戸田建設で働くことに誇りを持っていて、社会に貢献したいという気持ちがあれば、コンプライアンスに反するような仕事はしないはず。『仏つくって魂いれず』という言葉がありますが、まさにその“魂”が大切なのです」

つまり、働きがいのある環境づくりこそがコンプライアンスの基本なのです。こうした環境づくりのために欠かせないキーワードとなるのがコミュニケーション。当社では、どんなことでもきちんと報告し、上司や同僚と気軽に相談し合える風通しの良い職場環境づくりを進めています。

「自分で言うのもちょっと照れますが、私は戸田建設という会社が好きですし、とても良い会社だと思っています。それも、130年という長い歴史の中で先輩たちが連綿と築いてきたものがあるからこそ。誇りを持って働けるこの環境を、より良いものにして次の世代につなげていきたいと思っています」

ホームページで詳しく紹介しています

▶ **コンプライアンスの徹底**  
<http://www.toda.co.jp/csr/fair/compliance.html>

## 堅実・公正への想い－リスク管理／内部統制

業務の安全性と効率性を高めるために、社内外のリスクを適切に管理し、リスク管理、内部統制の強化に努めています。

スピード感ある業務推進には、  
優れたブレーキが必要です。



本社 内部統制推進室  
副室長  
加藤 文夫

### 正々堂々と仕事に取り組むしくみづくり

戸田建設では、経営や社員の行動が常に堅実・公正であるように、リスク管理や内部統制のしくみを整えています。内部統制推進室の加藤は、その目的を次のように語ります。

「当社は“理想とする会社像”として“堂々として、品格のある会社”を目指しています。これこそが内部統制の目指すべき姿を分かりやすく伝えている表現だと思います」

ステークホルダーの皆さまの信頼に応えるためにも、リスク管理はきわめて重要な条件です。当社では、事業で起こりうるリスクをあらかじめ把握し、それらを管理するとともに、発生した場合の影響を最小限にとどめるためのしくみづくりに全社をあげて取り組んでいます。また、不正やミスが起こらないしくみを整備する内部統制の充実にも継続して取り組み、社員一人ひとりが倫理観に基づいた行動を実践できる環境づくりに力を注いでいます。

加藤は、内部統制推進にかかわる以前、施工や営業などのライン部門業務に長く携わってきました。それだけに、こうした堅実・公正のためのしくみづくりの重要性を身をもって感じています。

「確かに書類作成が増えるなど社員たちにとっては煩わしい面もあるかもしれませんが、全社的なしくみによって守られているという安心感は大きい。自律的に正々堂々と仕事に取り組めるのです」

### “堅実・公正”の先を見据えて

当社では、リスク管理においても社員たちの声を活かしたボトムアップの活動を進めています。毎年実施している「リスク管理月間」もそのひとつ。リスク管理をテーマに各職場のグループでディスカッションを行い意識の向上を図っています。2011年は「震災対応の見直し」など日頃の業務とは異なるテーマについても全社員でアイデアを出し合い、リスク管理の改善にフィードバックしています。

「当社には130年間にわたって培われた“堅実・公正”という誇るべき社風があります。しかし、だからといって堅実にばかりこだわるのではなく、変化が早い社会に対応すべくスピード感を持った積極的な姿勢も大切です。仕事のアクセルを安心して思い切り踏み込めるようにサポートするのがリスク管理であり内部統制の役割だと思っています」

つまり、クルマの両輪ならぬ、アクセルとブレーキの関係—。堂々として品格があり、そして社会から信頼される会社であるために、当社はそのしくみを鍛え続けています。

ホームページで詳しく紹介しています

▶ **リスク管理・内部統制への取り組み**  
<http://www.toda.co.jp/csr/fair/risk.html>  
▶ **コーポレート・ガバナンスの強化**  
<http://www.toda.co.jp/csr/fair/governance.html>



# 2010年度CSR活動の計画と結果(抜粋)

当社では「ものづくり」「働きがい」「コミュニケーション」「堅実・公正」の『4つのCSR課題』それぞれに重点活動項目を設定し、各項目のPDCAサイクルを回すことでCSR活動を推進しています。

4つのCSR課題	重点活動項目	2010年度計画(目標)	PLAN	結果	DO	評価 CHECK	2011年度計画(目標)	ACTION	
ものづくり	品質管理	●QMSによる品質保証活動を継続改善		●ISO9001の再認証 ●用途別品質管理フロー(生産・物流・教育・医療の各施設)を作成		○	●QMSによる品質保証活動を継続改善		
		●お客さま視点に基づく技術開発を推進		●差別化を含めてさまざまな新しい技術提案を実現 ●開発した技術を社内水平展開するために、各支店に対する支店総合研修、PJ報告会等を開催		○	●お客さま視点に基づく技術開発を推進		
	安心・安全への取り組み	●CS調査により明確になった顧客ニーズに対応		●「サービス度充実調査」の結果を支店に展開 ●緊急時対応BCPに関する提案の強化		○	●CS活動を推進 ●BCPに関する提案の水平展開		
		●ユニバーサルデザイン、利便性・機能性向上等の提案を推進		●耐震補強に関する新工法を提案		○	●ユニバーサルデザイン、利便性・機能性向上等の提案を推進 ●震災復旧、耐震補強に対し、構造形式と施工方法を提案		
	環境配慮	EMSの推進	●EMSによる環境保全活動を継続改善		●ISO14001の再認証 ●「QE情報報告書」による情報の早期共有化による予防処置を実施		○	●EMSによる環境保全活動を継続改善	
		建設副産物・一般廃棄物対策 排出量および最終処分量の低減	●建設廃棄物の最終処分率の低減 目標:9.0%以下		●最終処分率 5.6%		◎	●建設廃棄物の最終処分率の低減 目標:9.0%以下	
			●一般廃棄物の分別の徹底 目標:オフィス内分別6品目以上		●分別数平均 8品目		◎	●一般廃棄物の分別の徹底 目標:オフィス内分別6品目以上	
		地球温暖化防止対策	●CO <sub>2</sub> 排出量原単位の削減(作業所) 目標:22.30t-CO <sub>2</sub> /億円以下(1990年比21.8%)		●原単位20.94t-CO <sub>2</sub> /億円(26.6%削減)		◎	●CO <sub>2</sub> 排出量原単位の削減(作業所) 目標:21.77t-CO <sub>2</sub> /億円以下(1990年比23.6%)	
			●グリーン調達品目を建築部門・土木部門・管理部門で設定し使用を推進		●個々の作業所において自主的に、採用品目数の目標数値を設定し推進 ●仮設部分でのグリーン調達品の使用を積極的に実施		◎	●グリーン調達品目を建築部門・土木部門・管理部門で設定し使用を推進	
			●CASBEEへの対応強化(設計) 目標:36件以上(2,000m <sup>2</sup> 以上の建築物) BEE値平均1.25以上		●CASBEE対応物件36件 BEE値平均1.48		○	●CASBEEへの対応強化 目標:1,000m <sup>2</sup> 以上の建築物に対応 BEE値平均1.25以上	
環境リスク管理の徹底	●技術支援部門における環境配慮事項の推進 ●研究・開発部門における環境関連プロジェクトを推進		●低炭素社会構築に向けてハーフCO <sub>2</sub> モデルオフィスビル開発を推進 ●トンネル工事関連環境配慮技術の研究開発を重点実施		◎	●技術支援部門における環境配慮事項を推進 ●研究・開発部門における環境関連プロジェクトを推進			
	●汚染土壌、有害物質の適正管理を徹底 ●PCB保管、および廃棄搬出時等のリスク管理を徹底		●油汚染土壌の浄化技術について開発を行い、保有浄化工法の内容を充実 ●PCBを適正保管		○	●汚染土壌、有害物質の適正管理を徹底 ●有害廃棄物の適正処理を推進			
働きがい	人事面での取り組み	●働きやすい職場環境づくりを推進		●モラル・サーベイを実施(回答率 約98%)		◎	●働きやすい職場環境づくりを推進		
		●人財のダイバーシティを推進		●自己申請によるコース変更・登用を実施		○	●人財のダイバーシティを推進		
		●次世代育成支援に向けた各種施策を充実		●育児短時間勤務制度の改定にあたり、取得可能期間について法の要請を上回る制度を構築 ●次世代育成支援行動計画を策定		○	●次世代育成支援行動計画に定めた項目の実施および検証、フォロー		
		●メンタルヘルス講習会の定期的な開催		●精神科産業医によるメンタルヘルス講習会等を実施(年32回)		○	●メンタルヘルス講習会の定期的な開催と拡充		
安全衛生管理	●TODA-OHSMSシステムによる労働災害防止を推進		●システム教育を実施しシステムの理解度を確認 ●システムの定着により2010年度は死亡災害ゼロを達成		◎	●TODA-OHSMSシステムの定着による労働災害防止活動の充実			
協力会社との協働	●技能者の育成のため協力会社との技術交流を推進 ●パートナーとしての連携と信頼関係を高めパートナーシップを醸成		●優良技能者就労管理システム(T-PARTNER)を構築 ●優良技能者手当支給制度を導入		◎	●技能者の育成のため協力会社との技術交流を推進 ●パートナーとしての連携と信頼関係を高めパートナーシップを醸成			
コミュニケーション	地域社会貢献	●事業所、作業所、研究所での地域貢献活動を継続 ●地域社会でのボランティア活動を支援		●千葉県松戸地域の小中学校への環境授業を実施 ●全国の作業所および技術研究所において見学会および地域社会貢献活動を実施		○	●事業所、作業所、研究所での地域貢献活動を継続 ●地域社会でのボランティア活動を支援		
	IR / 広報活動	●メセナ・文化活動を支援 (寄付・展示会協賛) ●IR活動を充実		●東京都庭園美術館 / 東京都写真美術館 / ラ・フォル・ジュルネ2010の協賛 ●証券アナリストミーティングの開催 ●株主アンケートの実施 ●日本語版に加え英語版年次報告書を発行		◎	●メセナ・文化活動を支援 ●IR活動を充実		
堅実・公正	コーポレート・ガバナンス	●取締役会機能および業務執行体制を強化・充実		●稟議決裁基準の見直し		○	●取締役会機能および業務執行体制を強化・充実		
	コンプライアンス	●コンプライアンスを徹底 ●各種ハラスメント対策を充実		●コンプライアンス研修(基幹社員研修を含め13回実施) ●企業倫理e-ラーニング実施(受講率 約83%)		◎	●コンプライアンスを徹底		
	リスク管理 / 内部統制	●全社的リスク管理を運用 ●BCPへの取り組みを充実 ●内部統制システムを運用・改善		●海外関係会社のリスク管理体制を確立、有効性の評価・改善を実施 ●総合震災訓練を全支店にて実施 ●金商法内部統制対象業務の運用状況を評価し不備へ対応		◎	●全社的リスク管理を運用・改善 ●BCPへの取り組みを充実 ●内部統制システムを運用・改善		

\* 環境活動に関する計画と結果はホームページでより詳しく紹介しています。 重点活動項目 / 環境会計 <http://www.toda.co.jp/csr/create/management.html>

凡例:◎目標を達成(活動充実) ○目標を概ね達成(活動実績あり) △目標を未達成(活動実績あり) ×目標を未達成(活動なし)



# 新生日本の礎をつくる

国連環境計画・金融イニシアチブ 特別顧問

末吉 竹二郎 氏



今年のCSRレポートを紐解くと先ず目に飛び込んできたのが多くの社員の明るい笑顔です。一段と洗練されてきたレイアウトで読みやすさが増したページのあちこちを埋めているのが働く人たちの自信に満ちた笑顔です。さすがに、「人がつくる。人をつくる。」をブランドメッセージとする戸田建設ならではのことに強く感じました。

言うまでもなく、今回は「東日本大震災」を抜きにしては語れません。早々に現地入りされた社長が現地の惨状を目の当たりにして心に刻まれた建設会社ならではの復興支援への決意には大変感銘を受けました。BCP支援システムなどを活用しての社をあげての復旧への迅速な取り組みは見事でした。でも、復興の作業はこれからが本番です。さまざまな社会インフラをつくる建設会社としての息の長い取り組みで、被災地ひいては日本の復興に大いに貢献していただきたいと思います。

ところで、1881年は明治14年、まだまだ江戸の雰囲気の色濃く残っていたことでしょう。そんな時代に誕生したのが「戸田方」です。それが130年後の2011年には世界最先端の環境ビル「TODA BUILDING 青山」を世に問うまでの永きにわたって存在し得たのも偏に創業以来の「建設を通じて社会福祉の

増進に貢献する」とした企業文化があったからこそです。歴史は単なる過去の記録ではなく、これからの行く末を暗示します。世紀を超える歴史を支えてきた当社の「ものづくりのDNA」が次の130年へ向けて一層鍛えられ磨かれていくことを期待して止みません。

さて、復興に目を奪われがちな日本ですが、私たちの地球はいま危機的な状況に直面しています。止まらぬ地球温暖化とその被害の拡大。劣化が進む生物多様性。広がる水危機、などなど。こうした危機的状況は一刻も早い対応策を取るよう私たちに要求しています。

そうした中、当社は「環境アクションプラン」のもとで建設作業所でのCO<sub>2</sub>排出を大きく減らし、女性中心の「ECO・リーダープロジェクト」がはじまるなど大きな成果も出はじめています。

とは言え、新生日本の創造のためには、企業であれ個人であれ、いま日本社会に存在するすべてが自らの役割の見直しを求められています。当社は130年を生きてきた建設会社です。「建設会社だからできる、そして、建設会社にしかできない」役割を、新生日本の礎づくりの中で見出し、大いに活躍されることを切に願っています。

## 第三者意見を受けて

末吉さま、第三者意見をいただきありがとうございます。ご意見の中にもありましたが、この3月、我が国は東日本大震災という誰もが忘れない災禍に遭いました。建設に携わる者として、今後の復興の一端を担うことが、現在の当社に与えられた最大の「企業の社会的責任」であると認識しております。くしくも当社は本年創業130周年を迎え、3月にCASBEE Sランクの最先端環境ビル「TODA BUILDING 青山」が竣

工を迎えました。この大震災は私どもに社会貢献とは何か、環境配慮とはどういうものなのかを強く問いかけるものとなりました。行く手にはエネルギー問題、地球温暖化など難題が山積しておりますが、当社は決意も新たに「建設会社だからできること」、その中で「当社に与えられた使命」というものに真摯に向き合い、社員一人ひとりが意識をさらに高めていくことで、CSR活動をより進化させていきたいと考えております。

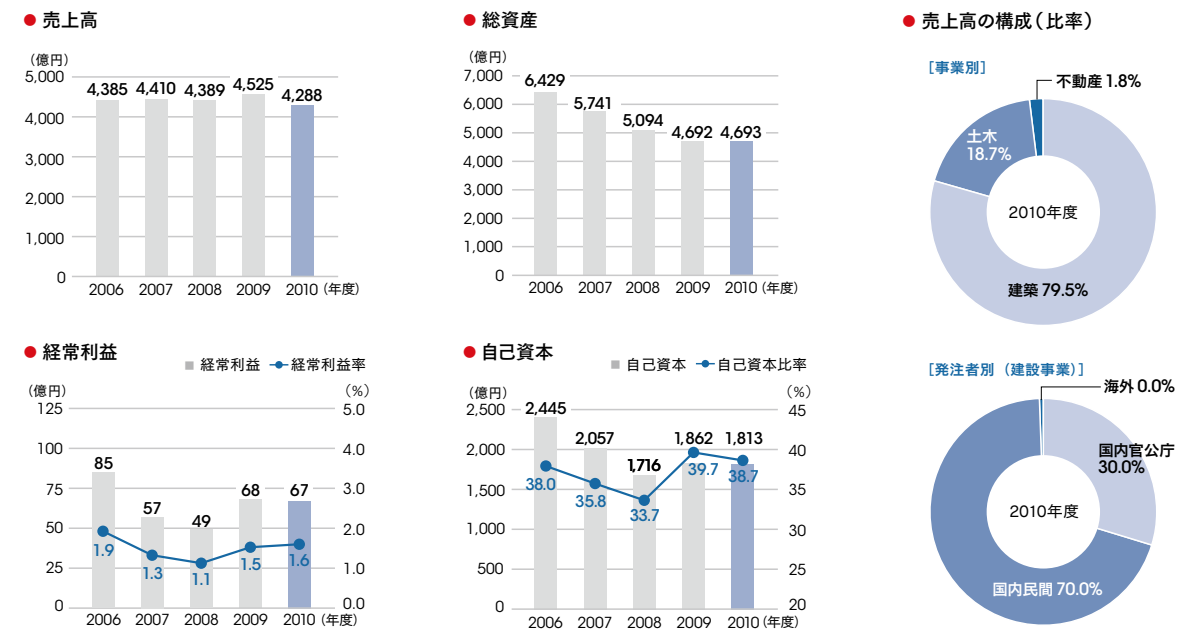


常務執行役員  
CSR担当  
鞠谷 祐士

## 会社概要

会社名	戸田建設株式会社 (英訳名 TODA CORPORATION)	事業内容	① 建築一式工事、土木一式工事等に関する調査、企画、設計、監理、施工、その総合的エンジニアリングおよびコンサルティング業務 ② 地域開発、都市開発等に関する調査、企画、設計、監理、施工、その総合的エンジニアリングおよびコンサルティング業務 ③ 不動産の売買、賃貸、仲介、管理および鑑定 等
本社	東京都中央区京橋一丁目7番1号 〒104-8388	連結子会社	国内10社 海外5社
創業	1881年(明治14年)1月5日		
設立	1936年(昭和11年)7月10日		
資本金	230億円(2011年3月31日現在)		
従業員数	4,110名(2011年3月31日現在)		

## 業績の推移



## 編集方針

戸田建設はCSR(企業の社会的責任)に対する考え方や方針、取り組みをより多くのステークホルダーの皆さまにご理解いただくとともに、CSR活動のさらなる充実を図ることを目的に、さまざまな媒体を用いて活動報告を行っています。

2011年度は、掲載項目を絞りながらCSR活動の中心となる社員にフォーカスすることでより読みやすいレポートを目指した「冊子版(コミュニケーション編)」と、CSR活動全般を網羅的に掲載し、かつ適時性を考慮して最新の情報も報告する「Webサイト(詳細編)」、環境に関するデータをコンパクトにまとめた「データシートPDF」の3つの媒体で情報発信に努めました。

**対象期間**  
2010年度(2010年4月~2011年3月)の活動を中心に、一部、期間以降の最新情報も記載しています。

**対象範囲**  
戸田建設の活動を中心に、一部、関係会社、協力会社等における活動も記載しています。

**発行**  
2011年9月(次回発行予定:2012年9月)

**冊子版**  
(コミュニケーション編)

**Communication**  
コミュニケーション性の向上

戸田建設とステークホルダーにとって重要な課題を、ブランドメッセージ「人がつくる。人をつくる。」を日々実践している社員一人ひとりの想いを通して紹介しています。

**Webサイト**  
(詳細編)

**Accountability**  
情報開示の充実

「冊子版(コミュニケーション編)」に掲載できなかった活動や詳細な数値データなど、網羅的な情報開示を行っています。また最新の情報も随時発信していきます。

**データシート**  
PDF

**Usability**  
閲覧性の確保

「Webサイト(詳細編)」に掲載している環境に関するデータを抽出し、PDFとしてコンパクトにまとめることで利便性を高めています。



人がつくる。人でつくる。

 戸田建設株式会社

CSR推進室

〒104-8388 東京都中央区京橋1-7-1

TEL. (03) 3535-2235

FAX. (03) 3564-6713

<http://www.toda.co.jp>

